

## カリキュラムの基本的な考え方

### 1. 教育理念の考え方

本大学では、看護を通して、人々の「健康」の実現に関与し、「生命の尊厳」を守り、「社会貢献」することを目指しております。

そのためには看護専門職者として、必須の知識や技術のみならず、看護の対象を生活者として、人間の尊厳と人権擁護の視点から全人的存在として捉えることが大切です。

また、学生は自らの人間としての創造性を高め、常に人間倫理に沿って判断・行動する力を体得することが大切です。さらに、多くの問題を解決するために保健・医療・福祉全般にわたる総合的な視点を持ち、看護ケア（医療技術・看護治療技術・看護ケア技術を用いた）の中心的な存在として、科学的に問題を解決する思考と行動をすることが求められます。

### 2. カリキュラムの特色

看護専門職の役割は、高度・専門化し、その活動のフィールドは医療だけでなく、保健や福祉などの分野にも広がっています。このため、本学ではこれまでの病院中心の看護教育に加えて、保健や福祉の場である地域に根ざした看護を実践するために、医療・保健・福祉領域の専門職が連携して、チーム医療の中でリーダーとなる看護専門職の育成をめざしています。

質の高い安心できる看護を実践するために、本学では、「安心」される看護の知識、「誠実」な看護の心、「信頼」される看護の技術を持ち合わせた看護専門職を育成するために、「人間を知る看護専門教育」「心の癒しを重視する看護専門教育」「医療・福祉を連携する看護専門教育」「地域と共生する看護専門教育」「実践的な能力を備える看護専門教育」の5つの柱を特色としたカリキュラムを構成しています。（図1）

#### 1) 「人間を知る看護専門教育」

人間の本質や生命の尊厳について考え、常に看護の対象である人間を生活者として、生物的、社会的存在としてとらえ、人格を有する崇高な全人的（Holistic）存在として、ヒューマンケアの基礎を学びます。

#### 2) 「心の癒しを重視する看護専門教育」

看護の対象者ひとりひとりの人格・心を大切にしておかきわり、心を癒すことについて、コミュニケーション技術やカウンセリングなどの基礎や、対象者との関わり自体

が互いにより影響をもたらすことができるように援助的人間関係について学びます。

### 3) 「医療・福祉を連携する看護専門教育」

介護保険制度実施によって看護を必要としているひとりひとりには、医療と福祉の専門職が一緒になって対応する必要性が高まっています。地域で生活する利用者のQOL（生活の質）を高めるために、各分野の専門職の人々と連携しマネジメントするための基礎を学びます。

### 4) 「地域と共生する看護専門教育」

地域で暮らす人々の健康を支えるために、健康の保持増進、疾病の予防、リハビリテーションなどセルフケアの支援をすることが求められます。幅広い知識を身につけ、個人のセルフケアを支援する方法や小集団の健康学習支援が出来るように学習します。

### 5) 「実践的な能力を備える看護専門教育」

看護者としての働きかけの基本や、対象の個別性を尊重した看護、対象者のあらゆる健康問題についての援助方法など、看護の実践について学びます。実習では、それまでに学習したことを統合し実践力を高めます。また、最後の「課題実習」では、チームケアのリーダーとしてふさわしい看護活動をどのように行うべきかを実習し、自らの力によって卒業後の課題をつかめるようにします。

## 3. カリキュラムの内容

カリキュラムは、前述した5つの柱を基に、基礎分野（一般教養科目）と専門基礎分野（医学系科目、保健系科目、福祉系科目）、専門分野（専門科目、実習科目、発展科目）で構成されています。

基礎分野の一般教養科目は、豊かな人間性を涵養するための授業科目と学問の基礎的能力を養う授業科目です。

専門基礎分野は、専門分野の基礎として、保健・医療・福祉など看護学を学ぶための基盤となる授業科目です。

専門分野の専門科目は、基礎看護学、地域看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の7領域の学問からなり、看護学の専門的な知識と技術、適切な判断と実践能力を育成します。発展科目は、さらに看護学を研究的に探求するための授業科目を設けています。実習科目は、理論と実践を結びつけ科学的な看護を実践するために病院、介護保険施設をフルに活用し、保健・医療・福祉の連携をとった内容を実習します。

(図1) カリキュラム編成の考え方

